

おはなし会のお知らせ

木 10:30 図書スタッフのおはなし会
6/11 6/25

日 14:30 ボランティア『ウーフ』のおはなし会
6/7 6/21

場所：2F 世界の絵本コーナー

入場無料 入退場自由
直接会場へお越しください。

企画コーナーのお知らせ

こども読書週間

4.29~6.28

世界の絵本賞

～ コルデコット賞とカーネギー画家賞 ～



ホットドッグ
(Gakken)
Wサメカ

こども読書週間にあわせて当館所蔵の
コルデコット賞とカーネギー画家賞の
歴代受賞作を紹介しています。
世界の絵本作家たちが手掛けた作品
は、こどもにも大人の方にも楽しん
でもらえるものとなっています。
ぜひ、お手に取ってみてください。

『今日、図書館で考える』 4.10~6.28

『せんそうとへいわ』

「せんそうはなんでもなくなりません？」
「へいわってなに？」
本から学ぶこともきっとあるはず・・・。

休館日・館内整理日

2026	6					JUN	
日	月	火	水	木	金	土	
		1	2	3	4	5	6
⑦	8	9	10	⑪	12	13	
14	15	16	17	18	19	20	
⑳	22	23	24	㉕	26	27	
28	29	30					

■ 休館日 ■ 館内整理日 ○ 図書イベント日

☆館内整理日は図書エリアが休館となります。
1F ブラウジングコーナーはご利用いただけます。

開館時間

10:00 ~ 18:00

(1F カフェ、ブラウジングコーナーは20:00まで)

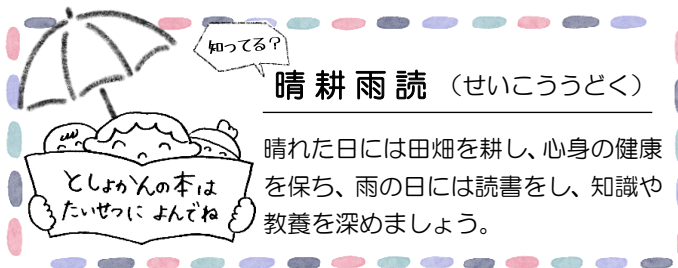
※状況により、開館時間が変更になる場合があります。

ブックポストのご案内

閉館中のご返却はブックポストをご利用ください。

場所：西入口・駐輪場の隣

☆大型本はブックポストには返却せず、図書エリアの
開館時間中に2F 図書カウンターへご返却ください



晴耕雨読 (せいこうりょうどく)

晴れた日には田畑を耕し、心身の健康を保ち、雨の日には読書をし、知識や教養を深めましょう。

太田市
美術館・図書館
ART MUSEUM & LIBRARY,
OTA

太田市美術館・図書館

Tel : 0276-55-3036

<https://www.artmuseumlibraryota.jp/>

図書館だより

2026年6月号



NEWS

臨時休館のお知らせ

6/30(火)~7/3(金)

蔵書点検のため、全館休館となります。閉館中のご返却はブックポスト(場所：西入口・駐輪場の隣)をご利用ください。



☆7/4(土)より通常通り開館します。

返却についてのおねがい

ご協力
お願いします!

この本は大型本です
直接カウンターに返却してください

・(←)左図のシールがついている大型本

- ・本と一緒に付録のCDを借りている
- ・汚れたり、破れてしまった本



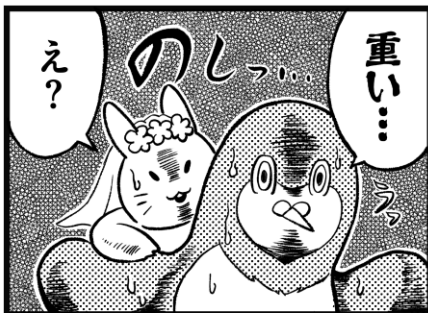
ブックポストには返却せず、開館時間中に
2F 図書カウンターへご返却ください

美術館の図書におちいろう

美術館・図書館
むかしばなし おやゆび姫



「おやゆび姫」って？ 国際アンデルセン賞の名前の由来になった、デンマークの童話作家ハンス・クリスチャン・アンデルセンの物語。花から生まれた親指ほどの小さな少女が、ヒキガエルにさらわれたことをきっかけにめくるめく大冒険！はたして幸せをつかめるのでしょうか？ 気になった方はぜひ、読んでみてくださいね。



☆ツバメさん、がんばれ…！！

2026年

国際アンデルセン賞 受賞者決定

国際アンデルセン賞とは…
1953年にIBBY(国際児童図書評議会)が創設した、子どもの本の優れたつくり手に贈られる国際的な賞です。2年に一度開催され、「Little Nobel(小さなノーベル賞)」とも呼ばれています。



作家賞

マイケル・ローゼン

1946年イギリス生まれ。これまで200冊以上の作品を手掛け、ユーモアと言葉のリズムにあふれた作品は多くの人々に愛されています。



ハクさん一家
とかしこいねこ
(徳間書店)
A口2026T



きょうおかいもの
にいったらね
(徳間書店)
A口2026T

楽しい言葉の
掛け合いが
たくまん♪

画家賞

蔡 皋 (サイコウ)

1946年中国生まれ。中国の作家として初めてBIB金のりんご賞を受賞するなど、中国の絵本界の代表的な存在です。



火城
(童心社)
A口2026P



桃源郷
ものがたり
(福音館書店)
A口2026P

美しく穏やかな
桃源郷の風景に
心安らぎます…☆

写真、映画、マンガ、SNS...身近な視覚表現はどこからきて、どこへいくのか？
視覚表現やメディア、その成り立ちや展開を整理していく断片的コラム。

第3回

カメラ、眼

堀野正雄とグラフィックモンタージュ 写真と社会性

関東大震災の復興を背景に写真は独自の写実性を活用し社会へ参画すべきだという考えが新興写真の周辺で大きく高まりました。そのなかで写真家の堀野正雄はグラフィックモンタージュを社会参画の方法と位置付けます。グラフィックモンタージュとは写真と文字を複数頁にわたり組み合わせ、ある主題を表現する形式でグラフィックに印刷された状態とします。堀野はここで板垣鷹穂、村山知義、大宅壮一、吉村貞司といった批評家やジャーナリストをシナリオや構成に迎え、自らは写真家という「技術者」に位置づけます。彼は社会的主題を表現しようとする「社会人」と共働することで写真家は「社会人たりうると考えたからです」。

けれど一方では、「共同実験」を堀野とともに行い機械美論を展開した板垣鷹穂はその論の中で人間の肉眼では捉えることのできない現実世界をカメラは捉え、さらには編集・構成を通して私たちの思考や行為の統制が出来るとも論じました。あるいは「技術」としての写真を考えるとき、私たちは「FRONT」といった戦時下の過剰なまでのプロパガンダ誌に容易にたどり着くことが出来ます。そのようなことを踏まえたとき、堀野正雄の「技術でもって社会人たらしめる姿勢」に対して私たちは冷静に立ち止まることが必要であると思うのです。

参考文献



幻のモダニスト
(国書刊行会)
東京都写真美術館/編
748 頁

☆堀野の代表的なグラフィックモンタージュを収録。これらが表した「社会」についても注意したい。